

■学院講義

今日のイエス・キリストの奇跡

学院講師・理事・ICF教会主任牧師

ジェリー・ジャンセン師

■1970年代アメリカのジーザス・ムーヴメントのリバイバルの中で救われる。1988年単身で北海道に來日。來日直後よりCFNJ聖書学院にて講師を務める。通訳を務めていた真紀子夫人と結婚後すぐにICF（インターナショナル・クリスチャン・フェローシップ）教会を開拓。現在会員250名にまで成長。開拓当初より進めてきた弟子訓練により働き人が起こされ、現在四つの枝教会（穂別・岩見沢・小樽・石狩）が出来、福音が広がっている。以前より、ジャンセン牧師を通していやしの業が起きていたが、2007年より、毎週のように顕著ないやしが起こっている。今までに、脳梗塞、慢性肝炎、関節炎、ウイルス性脳炎、生存率15%の癌、骨折、子宮のポリープ、糖尿病など様々な病がいやされている。



講義中の授業風景



クリスチャンの世界観

皆さん、私たちは世界観を理解する必要があります。世界観とは色眼鏡のようなものです。みんな何らかの色眼鏡を持っています。それはあなたが色眼鏡を通してどのように世界を見ているかということです。もしあなたがイランで育てられたら、イスラエルで育った人と世界観が違うでしょう。私達は一般的に科学的な文化の中で育てられます。ですから科学的に説明できなければ本物ではないという社会に生きています。しかし、それはクリスチャンにとっては間違った考え方です。ヘブル人への手紙には「私たちは目に見えないものでこの世界が造られたことを信じています」と書かれています。

思いの一新

フォースクエア教団を始めた女性の牧師エイミー・マクファーソン師が、アメリカの様々なところで伝道集会をしていました。彼女には二人の子供がいて、誰かが男の子に靴をプレゼントしてくれました。ところが、もらった靴は男の子の足には小さすぎました。すると娘さんの方が言いました。「お母さん、あのイスラエルの民が荒野を旅行していたときに、靴は擦り切れなかったと書いてありますよね。子供だって靴を持っていたはずですよね、お母さん？」ということは40

年間歩いて靴が擦り切れなかったのは、足の成長と共に靴も大きくなったということじゃない？」と聞きました。皆さんは考えたことありますか？娘さんが言った「イスラエルの民」とは英語で「children of Israel～イスラエルの子供たち～」と言います。ですから、イスラエルの子供たちは靴が備えられたのだから、弟がもらった靴も足にはまるように大きくなるはずだと言いました。お母さんもそうなると思い、靴が大きくなるように祈りました。そしてもう一度履いてみたら靴はぴったりだったのです！私たちクリスチャンとして一番大きな必要は、この考え方を一新するというのではないのでしょうか？ローマ12章2節に「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい」とあります。日本語で「心の一新」とは「思いの一新」という意味です。新しく生まれたとは、「霊」が新しく生まれたということであり、考え方は変えられていかなければなりません。つまり自分の思いを新しくすることです。

成長すると思いが変えられる

エデンの園では、アダムとエバに、神様に対して間違った